

紹介 平野克巳著『図説アフリカ経済』

著者	絵所 秀紀
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジア経済
巻	44
号	1
ページ	135-135
発行年	2003-01
出版者	日本貿易振興会アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00007828

平野克己著

『図説アフリカ経済』

日本評論社 2002年 vi+185pp.

絵 所 秀 紀

「アフリカ経済を総体として語る」という、気宇
 壮大な書である。チャレンジ精神に溢れていると言
 ってもいい。またタイトルに「図説」とあるように、
 図表を多用しながら、アフリカ経済入門を目指した
 書でもある。構成（序章「アフリカ経済論」に挑む
 /第1章 成長しない経済/第2章 アフリカの農
 業/第3章 アフリカの製造業/第4章 アフリカ
 の対外経済関係/第5章 地域経済協力/第6章
 4割経済大国南アフリカ/第7章 成長しない経済
 の行方）から読み取れるように、正面からのアフリ
 カ経済論を目指したものである。また第1章および
 第7章のタイトルから窺われるように、開発途上
 にある経済ではなく、「成長しない経済」としてアフリ
 カを理解し、その原因を探り、あわせて処方箋を
 提示する試みである。

なぜアフリカは「成長しない経済」であるのか。
 著者の解答は簡明である。すなわち、アフリカでは
 農業革命が欠如しているからであり、したがって求
 められているものは「穀物の土地生産性を少なくと
 も倍に増やそうとする開発政策」である。「成長し
 ない経済」としての「アフリカ問題」は、アフリカ
 経済の「構造的特性」に起因するものであり、「自
 由化と開放化だけでは」問題を解決することはでき
 ない。また、「貧困層の8割を構成する小農の所得
 向上」がないかぎり、貧困問題も解決できないと結
 論付けている。

本書は主に国際諸機関の各種統計を整備しながら、
 48カ国に上るアフリカ世界の経済像を、アフリカを
 構成する諸国間だけでなく、アジアやラテンメリ
 カ、また先進工業諸国と比較する中から、明らかに
 したものである。本書の第1の貢献は、この点にあ
 る。剛速球投手でなければなしない、なかなかの
 力業である。こうした試みをする中から、おそらく
 著者自身も多くの発見をしたに違いない。しばしば

「モノカルチャー」経済の典型として描かれてきた
 アフリカ像の「幻想」(32ページ～)、ロバート・ベ
 イツの主張する「収奪国家」論に対する疑義(57ペ
 ージ)、製造業雇用面におけるモーリシャスの際だ
 った特異性(63ページ～)、外国直接投資(FDI)
 の受け入れにおいてGDPの3倍近いFDIストック
 を持つレソトの例外性(92ページ)等々、興味を
 そそる多くの発見がある。また第1章第3節の「ア
 フリカ開発思想の変遷」は、パンアフリカニズムか
 らラゴス行動計画やバーク報告を経て、世銀の構造
 調整思想とアフリカからの代替案に至るまでの内容
 を手際よくまとめたもので、入門者にとってもわか
 りやすい。

しかし剛速球投手にも弱点がある。さまざまな比
 較においてアフリカ経済の特性を描き出すという意
 図はすばらしい。が、しばしば比較の意味が十分に
 伝わってこない。表面的あるいは恣意的な比較にと
 どまっているという印象を受ける。例えば、メイズ
 の土地生産性を比較した図2-6ではジンバブエ、ケ
 ニヤ、タンザニアが選ばれているのに対し、国際比
 較をした図2-7ではアフリカからガーナが選ばれて
 いる。なぜか。あるいは「ほぼ同じ1人当たりGNP
 を有する」という理由だけで、セネガルと中国、イ
 ンドとケニヤ(65ページ～)、あるいは南アフリカ
 とマレーシア(158ページ～)の製造業が比較され
 ている。なぜか。こうした比較に、どれほど意味の
 あるロジックが隠されているのであろうか。また時
 折、舌足らずの感があるのも否めない。モーリシャ
 スの輸出志向工業化と香港資本との関係について叙
 述がない。レソトのFDIがずば抜けて高い理由が
 触れられていない。南アフリカの将来にとって「産
 業政策」が必要であるとしているが、どのような産
 業政策が必要なのか、これまた論じられていない。

最後に2点。「総体としてのアフリカ経済」とい
 う試みは理解できるが、初学者には個々のアフリカ
 諸国の具体的なイメージがつかみにくい。主要国だ
 けでいいから、コラム仕立てによる国別の概説をつ
 けてもらえると、有り難い。また索引がついていな
 い点は、力作であるだけにとても残念な気がした。

(法政大学経済学部教授)